

平成 29 年度 7 月 SSH 活動記録

サイエンス・ダイアログ 2017.7.11

7月11日(火)7校時、国際英語科2学年対象のサイエンス・ダイアログを開催しました。日本学術振興会の主催するプログラムで、来日している外国人研究者を講師として招き、英語の講義を聴くという取り組みです。今回の講師は、早稲田大学から **Mr. Reto Hofmann** が球陽高校に来校し、講義をしていただきました。サイエンス・ダイアログという名称ですが、講義は、日本史に関することで、論理的思考や批判的思考に焦点をあてたものでした。講義の中では色々な国々に住んだ経験のある講師から、「故郷とは何か?」、「どうして歴史家になったか?」などをテーマに進めてもらいました。非常に暑い中での講義でした。事前学習も行って講義に臨んだ国際英語科の皆さんは、講義終了後には、「他者から客観的に見た沖縄のイメージとかが知れて良かった。」や「自分たちも考えさせられるような内容の講義で参加しやすくて良かったと思う」などの感想でした。英語に関しても「ネイティブの英語を聞くことが出来て良かった」や「英語が難しかったけど楽しかった」などの英語学習に対する今後の励みになったようでした。



野外実習英語新聞



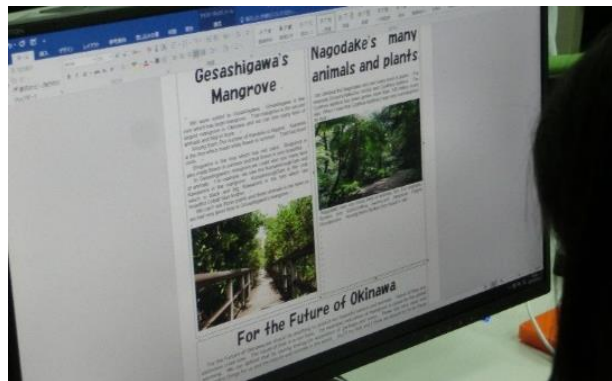
S S H事業に関わる国際英語科 2 学年の取り組みの一つが「野外実習新聞英語版作成」です。1 学年時に作成した野外実習新聞を英語に翻訳する取り組みです。

球陽高校の生徒は、1 学年の野外実習で本島北部、名護市や東村に行き、慶佐次川でのマングローブ観察、名護岳での植生観察、地層見学など、様々な視点から沖縄の自然観察を行いました。

国際英語科の皆さんは、2 学年に進級して、英語表現 II という授業の中で野外実習新聞英語版の作成に取り組みました。沖縄の自然を学び、新聞を作成し、それを英語に翻訳することで、身近にある自然について学び、それを英語でどう表現するかを学びました。生徒たちは、作成にあたって『専門用語が難しくて、英語に直すとき苦労した』や『一年前に学習したことを改めて見返すことができた』など、苦労した分、学んだことも多いようでした。

私たちにとって沖縄の自然は、身近にありますが、自分たちで学ぶ機会を持つことは難しいかもしれません。授業や学校の取り組みを通して私たちの住む沖縄の豊かな自然を学び、改めてその価値を再認識することができるのではないのでしょうか。

また、英語に変換する作業を通して、新たな言葉を学び、沖縄の自然について英語で紹介できるようになったのではないのでしょうか。



Science English Lab

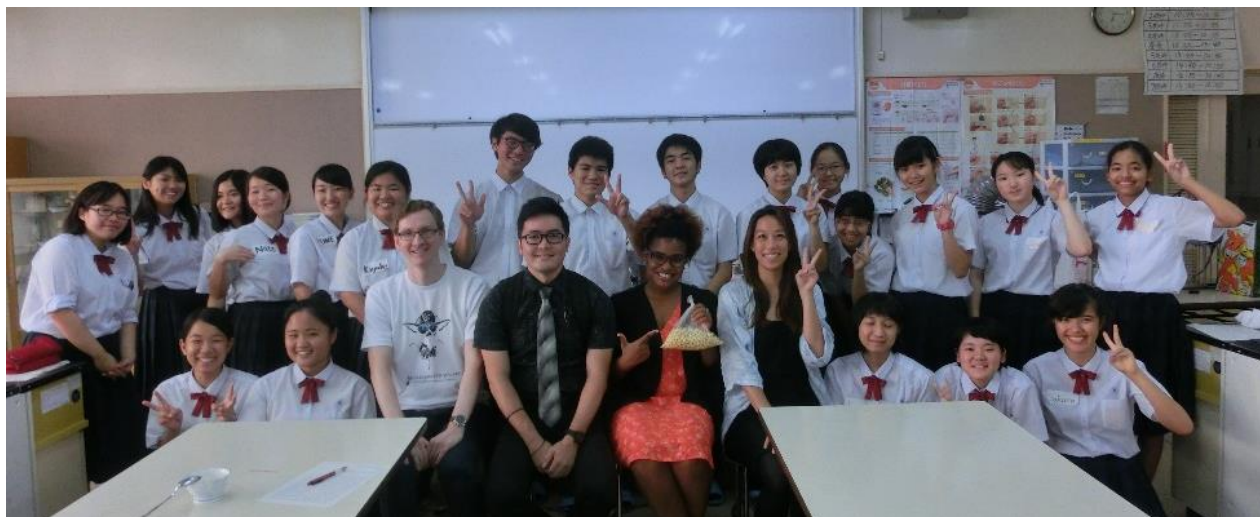
2017.7.21

サイエンスイングリッシュラボは、簡単な科学実験を全て英語で行うという取り組みです。今回の実験のテーマは2つでした。1つめは「振動反応：ヨウ素デンプン反応を利用して、酸化還元反応を知ろう」というものでした。危険な化学薬品を扱ったため、生徒の皆さんは、安全のため手袋をしてめがねをかけて実験を行いました。3種類の透明な液体を一度に混ぜると褐色から濃青色に、そしてまた透明に戻るという反応を見て、歓声があがっていました。コメントの中にも「色が変わるのがとてもきれいで見る事ができて良かったです」などが多くありました。

2つめの実験は、「ゆし豆腐を作ってコロイド溶液を理解しよう」というものでした。普段の生活の中にある豆腐作りの中にも化学が隠れていることに生徒の皆さんは感動していました。「ゆし豆腐を作るのは本当に大変でした。豆腐にならなくて液体だったけど、楽しかったです。」というコメントもあり、ほとんどの生徒が楽しかったとコメントしていました。

「英語を話すこと」自体が生徒の皆さんにとって難しいことです。それを化学の用語を使いながら実験を行うのはさらに難しいことだったと思います。それにもかかわらず、参加者の皆さんは、皆、「楽しかったけどとても楽しかった。」や「英語ってやっぱり楽しいなと思った、(科学も)」というコメントが大多数でした。中には「思ったことを英語で言えた時はすごくきもち良かったです。」というコメントもありました。英語を話せるようになるのは難しいと思いますが、こういう経験を積み重ねていって、自分の思ったことを英語でも日本語でも相手に伝えられるような球陽高校生になってほしいと思います。

来年も多くの参加をお待ちしています。



理数科 2 学年の取り組み

理数科 2 学年は、英語表現の授業の中で SSH 事業の一環としてプレゼンテーション活動を行いました。"Nature in Okinawa"というトピックで、グループに分かれ、スライドを作成し、英語でプレゼンテーションを行うという活動です。各グループは、沖縄の自然に関連したテーマをそれぞれ選択し、グループ皆で分担し、力を合わせてプレゼンテーション完成に励んでいました。生徒の皆さんは、英語を覚えて発表しなければならず、直前まで覚えようと頑張っていました。テーマも『沖縄の自然』、『沖縄の毒を持つ動物』や『沖縄の珊瑚礁』など、沖縄の特色を捉え、工夫をこらした物でした。生徒達の感想には、「沖縄の自然について知ることができたので良かった」や「皆のプレゼンテーションはとても良かった。」などがありました。また「アイコンタクトがうまく出来なかったので次は改善したい。」などの反省のコメントもありました。沖縄の自然を再認識出来る良い機会になったと思います。

